



車いすをアジア諸国へ いわて車いすフレンズの取組



いわて車いすフレンズとは

現在、アジア諸国では、車いすが高価でなかなか購入できず、外出や日常生活に困っている人がたくさんいます。一方、日本では、国の制度により誰でも車いすを利用できる反面、故障等で廃棄される車いすがたくさんあり、その数は年間5万台以上と言われています。

このような中、公益財団法人日本社会福祉弘済会では、使われなくなった車いすを工業高校生が修理・整備しアジア諸国に贈るボランティア活動「空飛ぶ車いす」を、1999年に開始しました。

いわて車いすフレンズは、この「空飛ぶ車いす」活動の一翼を担うものとして、岩手県内の工業高校生等が中心となって2003年から活動を開始し、これまで19か国に延べ901台の車椅子を贈っています。

全国では、31都道府県の約80校が「空飛ぶ車いす」活動に参加しています。

寄贈先の国

タンザニア、南アフリカ、インドネシア、バヌアツ、スリランカ、タイ、ネパール、フィジー、ベトナム、マレーシア、モンゴル、台湾、大韓民国、シンガポール、フィリピン、ミャンマー、中華人民共和国、ブータン、日本（震災被災地）

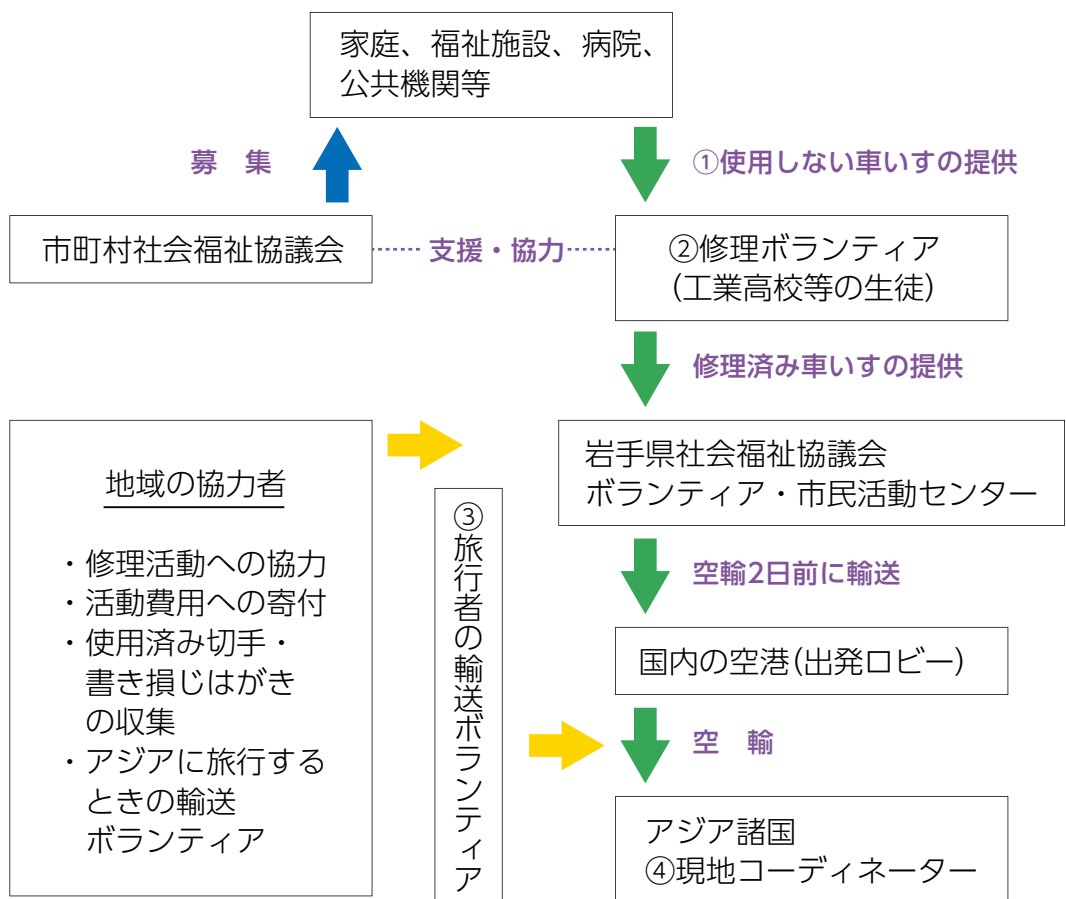
ボランティアのリレー

～思いをつなぐ車いす～

いわて車いすフレンズの活動は、ボランティアのリレーで成り立っています。

- ① 家庭、社会福祉協議会、福祉施設等が使用しなくなった車いすを提供
- ② 工業高校等の生徒による修理・梱包（修理ボランティア）
- ③ アジア諸国への渡航者が空港で車いすを手荷物として受け取り、現地に輸送（輸送ボランティア）
- ④ 現地コーディネーターが車いすを受け取り、寄贈先に輸送（受け取りボランティア）

また、車いすの国内輸送費は、使用済み切手や書き損じはがきの収集ボランティアに支えられており、寄付された使用済み切手は1kg当たり約300円に換金され、輸送費の一部に充てられています。（はがきは所定の手数料を払って切手に交換後、企業等の協力により換金）平成30年度、県内では、196団体・40個人からのご協力がありました。本県からの使用済み切手の寄付は、全国の約9割を占めているとのことです。皆様のご協力に、感謝申し上げます。





令和元年度車いす整備技術講習会を開催

6月25日、ふれあいランド岩手を会場に、車いす整備技術講習会が開催され、活動に取り組んでいる7校の生徒、教員42名が参加しました。

はじめに、アドバイザーの嶋見優太さん（空飛ぶ車いすを応援する会）から、アジア諸国の現状や車いすを必要としている方々の様子、贈られた車いすが現地で大変喜ばれていること、車いすの整備不良や輸送中の破損が増えていることなどが報告されました。

その後、学校ごとのグループに分かれ、東日本福祉機器商会の福祉用具専門相談員を講師として車いすの修理作業に取り掛かり、部品のサビ取り、ノーパンクタイヤの装着、ブレーキやタイヤ回転数の調整、安全点検等を行い、12台の車いすを再生しました。



後半、アドバイザーの梅原直人さん（空飛ぶ車いすを応援する会）から、車いすが利用者に届くまでに何度も積み下ろし作業があり、その過程で不具合が生じていること、しっかりとした梱包は車いすの破損を少なくする上、部品の紛失防止にもつながることが話され、具体的な梱包方法の説明がありました。

講習会の締めくくりとして、高校生が心を込めて修理・梱包した車いすが運送業者に託され、参加者全員でトラックの出発を見送りました。

今回整備した車いすは、緊急支援としてスリランカに贈られます。

岩手銀行労働組合使用済み切手寄贈式



7月25日、岩手銀行労働組合（加入者1,006名）の澤口達也執行委員長と竹花純哉書記長が岩手県社会福祉協議会を訪れ、本会右京昌久事務局長に使用済み切手6,450gを手渡ししました。

同労組による使用済み切手の寄付の取組は、いわて車いすフレンズ活動が始まった2003年から継続して行われており、今回で17回目となります。